

野沢温泉トレイル大会遭難(2021年7月)

トレラン大会で道迷い遭難。参加者にはGPS機能のある時計や電話、予備バッテリーが装備として義務付けられており、遭難者は大会本部に救助を求め事なきを得た。



解説

実は、2019年7月の野沢温泉トレイル大会で道迷い遭難による行方不明者が発生。警察、消防、野沢温泉村の遭難対策協議会等60人態勢で捜索するも手掛かりがつかめず今でも発見できていない。

遭難対策として大会本部は、①ルート目印のテープは100m～300mと間隔を短くした。②コース案内板等を500m以内に設置。③スーパー、チェックポイント係で通過人数の確認を徹底する。④夜間走行、寒さ対策、雨対策等を考慮し、必須携帯品として、ライト、予備バッテリー、防水、防風ウェア、「GPS機能」のある時計や電話等を持つようにした。

また、2022年の大会では、「ココヘリ」発信機の携帯も必須となった。今回の事例は、遭難が発生した後、スーパーが「ココヘリ」受信機を持って捜索、同時に「ココヘリ」ドローンチームも捜索開始。ココヘリ受信機が反応したため遭難者を発見できた。

私も、「ココヘリ」に加入している。山では何が起きるか分からないので有効なものは何でも活用していきたいと考えている。大会運営側も「ココヘリ」ドローンチームを準備していて、過去の事例を反省して大会を運営しているところは素晴らしいと思う。